

輝け！シン尾花沢中

第 1 1 1 号

令和 8 年

10 月 1 日

真理のとびら うちひらく 希望にもえる わが学園

本物の芸術を通して「礼節」を学ぶ～能・狂言鑑賞教室～

今年度、「生徒に本物の芸術に触れてもらい、豊かな情操を養う」ことをねらいとし、(公財)鎌倉能舞台の方々による文化庁「舞台芸術等総合支援事業」を受けることとなり、10月20日(火)の本公演に向け、9月29日(火)に事前ワークショップが、次のように行われました。

- ①能楽の基礎知識や歴史についての説明を聞く。
- ②生徒全員で、「謡曲」の一節「小鍛冶」を謡う練習をする。
- ③能面、装束・小道具や楽器(能管や小鼓)などについての説明を聞く。
 - 押切さん(1年)が、能面の視界の狭さを体験する。
 - 三瓶さん(2年)や井向さん(2年)他多数の希望者が、能管を実際に吹く。

能面を付けた怜生さん

能管に興味津々の耀斗さん

- 能面を見たり、ヤクの毛でできた装束に触ったりする。
- ④能楽師が小道具として使用する「刀」と「槌」を紙で工作する。
- ⑤④で作った「刀」と「槌」を使って、「小鍛冶」の型をやってみる。

能面、ちょっと怖い...

私は、「本物の芸術に触れる」機会を通して、伝統を継承する厳しさを、改めて実感しました。進行してくださった中森貫太氏が「精一杯説明している前であくびをするのは、相手に対して非常に失礼なことです。もし、師匠の前であくびをするようなら、激しい叱責、ときには破門となることもあります。もし、あくびをしたくなかったときは、手で口を隠すようにしてください。ステージ上からも注意します」とおっしゃられ、実際に生徒が注意される場面がありました。

「刀」と「槌」を作ります

「能」や「狂言」は、日本の伝統芸能として何百年も受け継がれてきたわけですから、師匠から弟子への稽古の厳しさは容易に想像できるかと思います。昨今の授業は、「対話」などの話す活動が多く取り入れられており、長時間にわたり静かに説明を聞く場面は減っています。中森氏のお話を通して、教育の原点である知識伝承方法の一つ「聞く態度」の在り方について再確認することができました。

「槌」を振り上げ「刀」を打つ

終了後に、2年生に感想を聞くと「難しい内容もあったけれど、興味をもって楽しく学習することができました。『人前であくびすることは失礼にあたる』ということは、全くその通りだと思いました」と答えてくれました。

いい学びができたようで、うれしく思ったところです。

【文責：校長 工藤雅史】